

取扱説明書

機器を安全に使用するため、ご使用前に必ずお読みください。
取り扱い説明書は、ご使用になる方がいつでも見ることのできる場所に保管してください。

認証番号 222ALBZX00004000号
MADE IN JAPAN
OM-H0194



Powerful Partners®

使用目的

有資格者による歯科領域の治療または技工にのみ使用してください。

⚠ 注意

- ・口腔外科領域の治療には使用しないでください。
- ・ガタ、振動、音、温度（発熱）に十分注意して、予め患者の口腔外で回転させ点検を行ってください。その時少しでも異常を感じたら、すぐに使用を中止し販売店へ連絡してください。
- ・使用中、少しでも異常を感じたら直ちに使用を中止し販売店へ連絡してください。
- ・モータ回転中、チャック開閉リングは絶対に回さないでください。また、チャック開閉リングが開いている時やバーを取り付けていない時はモータを回さないでください。ハンドピースが回され、モータのインサート部に傷がついて着脱できなくなる、または急激な発熱の恐れがあります。
- ・このハンドピースは、治療および精密技工用として設計されています。刃部の直径が4mm以上の太いバーで重切削を続けるとベアリングの寿命が極端に短くなったり、バーが取り外せなくなる、またはバーが飛び出しけがをする恐れがあります。
- ・ご使用前にバーが安全に取り付けてあるかご確認ください。不完全な取り付けは、回転中にバーが抜ける恐れがあり危険です。
- ・装着しようとするバーのシャンクは、いつもきれいにしてください。ごみなどが内部に入ると、芯振れやチャック把持力が無くなるなどの原因になります。
- ・バー製造業者が指定している許容回転速度を守って使用してください。バーの飛散や曲がりによる事故や故障の原因になります。
- ・取説で指定された以外の分解、改造は絶対に行わないでください。
- ・強い衝撃を与えないでください。特に落下させないように注意してください。
- ・切削時は安全、健康のため保護眼鏡、防塵マスク等を着用してください。
- ・ハンドピース内のボールベアリングは消耗品です。破損した状態で使用すると発熱し、火傷の恐れがあります。
- ・長時間使用していない状態で再び本製品を使用する際は、ガタ、振動、異音、発熱に注意して空回転させ、異常のないことを確認してから使用してください。
- ・酸化電位水（強酸性水、超酸性水）、または、滅菌液で、洗浄、浸漬、拭き取りは行わないでください。
- ・定期的なメンテナンスを行う事をお勧めいたします。
- ・本製品は、特定保守管理医療機器です。医療機器安全管理責任者を配置し、医療の安全管理の為に体制を確保する事が、医療法等で義務付けられています。

1. 仕様

型 式	FX65
一 般 的 名 称	ストレート・ギアードアングルハンドピース
販 売 名	ストレートハンドピース FX65
許容入力最高回転速度(モータ)	40,000min ⁻¹
使 用 バ ー	シャンク径φ2.35、全長44.5mm、刃部の最大作業部径4mm以下のバー またはJIS T 5504-1（軸部形式2）に規定されたバー またはJIS T 5901に規定するUタイプコントラ
バ ー の 装 着 長 さ	30mm
ギ ア 比 率	1:1

2. ハンドピースとモータのセット方法

取り付ける際は、ハンドピースを、モータのインサート部にまっすぐ差し込みます。
取り外しは、モータ前部とハンドピース後部をしっかり持ってまっすぐ引き抜きます。

⚠ 注意

- ・ハンドピースの着脱は、駆動側のモータの回転が完全に停止してから行ってください。
- ・Eタイプ（JIS T 5904に規定されたジョイントを有する）、且つ許容入力最高回転速度以下のモータと接続してください。

3. 使用前の点検について

使用前に下記の手順で点検を行い、異常がないことを確認してから使用してください。

- 1) バーを取り付けます。
- 2) 取り付けしたバーの許容回転速度に回転速度をあわせハンドピースを作動させ、バーのガタ、異常振動、異常音がないかを確認します。いずれかの異常があった場合は使用を中止し、販売店へ修理を依頼してください。
- 3) 上記の異常が見つからない場合は、ハンドピースをそのまま1分間作動させてください。ハンドピース停止後、ハンドピース表面に異常な発熱がないか確認してください。発熱があった場合は使用を中止し、販売店へ修理を依頼してください。
- 4) 全ての異常がないことを確認できましたら使用を開始してください。

4. 切削バーの着脱方法

⚠ 注意

切削バーの着脱は、必ずモータの回転が完全に停止してから行ってください。

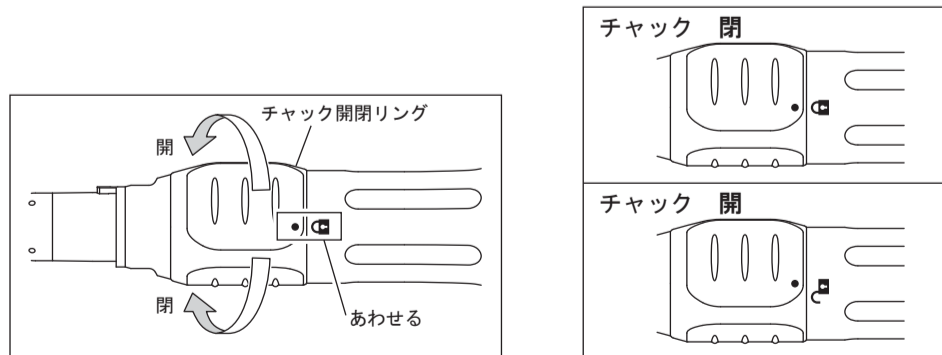


図 1

⚠ 注意

- ・切削バーを固定した後、●印と“Ⓐ”印があることを確認してください。（図1）●印と“Ⓐ”印がずれた位置で回転させるとハンドピースが発熱し、火傷をすることがあります。
- ・チャック開閉リングが開いている時やバーを取り付けていない時は、モータを回さないでください。
- ・バーの浅咬みはしないでください。ベアリング早期破損の原因になります。
- ・曲がったバー、傷の付いたバーは使用しないでください。これらのバーを使用しますと、ベアリングの早期破損の原因になります。

5. メンテナンス

5-1 清掃

☑ 洗浄消毒器の使用が可能です

表面の汚れをブラシ（金属製は不可）等で払い落とし、消毒用アルコールを含ませた綿等で拭き取ります。
洗浄消毒器を使用する場合は、ご使用の洗浄器の取扱説明書をご確認の上、使用してください。

⚠ 注意

洗浄消毒器をご使用の際は、洗浄消毒器の取扱説明書に従って正しく使用してください。

5-2 注油

注油は使用後、オートクレープ前には、必ずパナスプレープラスまたはケア3プラスによって行ってください。

■パナスプレープラスによる注油（図2）

- 1) パナスプレーに、Eタイプスプレーノズルを取り付けます。
- 2) ハンドピースから、バーを取り外します。
- 3) Eタイプスプレーノズルをハンドピース後部へ差し込み、2秒間くらいスプレーします。注油は先端から異物等の汚れが出なくなるまで繰り返し行ってください。

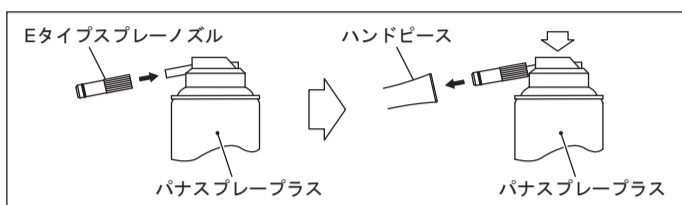


図2

⚠ 注意

- ・注油する際は、ハンドピースをしっかり押さえてスプレーの圧力によって飛び出さないように注意してください。
- ・スプレーは、ハンドピース先端よりオイルが出るくらい（2秒間くらい）まで行ってください。
- ・スプレーを、逆さにして使用しないでください。
- ・上記の注油洗浄を何度か行ってもオイルに汚れが混じる場合は、内部部品が消耗している恐れがあります。販売店へ修理を依頼してください。

■ケア3プラスによる注油

自動注油システム ケア3プラスのご使用をお勧めします。

- 1) ハンドピースを正しいアダプター（製品番号：Z280035）に接続します。
- 2) ケア3プラスの取扱説明書をご確認のうえ、注油を行ってください。

⚠ 注意

取り外したハンドピース先端から出るオイルに汚れがにじんでいる時は、再度メンテナンスを行ってください。

5-3 滅菌

弊社では、滅菌についてはオートクレープ滅菌を推奨します。

初めてご使用になるとき、および各患者ごとの治療が終わりましたら、バーを取り外し下記のとおりオートクレープ滅菌を行ってください。

■オートクレープ滅菌方法

- 1) 表面の汚れをブラシ（金属製は不可）等で払い落とし、消毒用アルコールを含ませた綿等で拭き取ります。
- 2) 注油します。（5-2 注油を参照）。
- 3) オートクレープ用パウチに入れ封印します。
- 4) 135℃までの温度でオートクレープ滅菌を行います。
例）121℃で20分間、または132℃で15分間。
- 5) 使用するまでパウチにいれたまま、清潔な状態を保てる場所に保管してください。

⚠ 注意

- ・薬液の付着した器具と一緒にオートクレープ滅菌すると、表面が変色したり、内部部品に影響を与えます。オートクレープ滅菌器の中には薬液が入らないように注意してください。
- ・乾燥工程で135℃以上に上昇してしまうような場合は、乾燥工程を省いてください。
- ・急加熱、急冷するようなオートクレープ滅菌は行わないでください。
- ・保管の際は、気圧、温度、湿度、風通し、日光、ほこり、塩分、イオウ分を含んだ空気などにより悪影響が生ずる恐れのない場所に保管してください。
- ・滅菌直後は高温となっていますので触れないように注意してください。
- ・弊社では、オートクレープ滅菌を推奨しています。その他（プラズマ滅菌、EOG滅菌等）の滅菌方法は検証しておりません。

6. 定期点検について

弊社では日常点検のほか、年に1度の定期点検を行うことをお勧めします。毎日使用される等、ご使用の頻度、環境によりましてはさらに短い期間で点検を行ってください。なお、点検の際は販売店へご依頼ください。